

塩野義製薬株式会社御中

「Mother to Mother プロジェクト」第4年次 月次報告③

対象期間：2018年2月1日～2019年3月31日

1. 支援事業概要

事業名：	Mother to Mother Shionogi Project
事業地：	ケニア共和国 ナロク県 オスポコ郡 エランガタ・エンテリット地区
事業期間：	2018年4月～2019年9月（事業4年目）
対象人口：	741世帯（住民3,545人）
年間予算：	2,000万円（啓発教育費及び地域開発援助事業管理費等18.5%を含む）
活動目的：	水衛生環境の改善を中心としたマルチセクターの取り組みを行い、住民への啓発と意識・行動変容を通して対象地域の子どもと妊産婦の健康状態の改善を目指します。また、下痢と栄養状態を指標として、その効果の調査・研究を行います。

2. 進捗報告

第4年次に予定している12の活動のうち、対象期間に実施した活動についてご報告いたします。

活動② 衛生施設の建設方法の普及

エランガタ・エンテリット地区の2カ所でWV、保健省、村落保健員が住民に対し、衛生施設（トイレ）を住民自ら設置することについてのフォローアップを行いました。2つの衛生施設が建設され、その他にも建設中の施設がいくつかあります。

活動⑥ 母子保健研修

本事業で研修を受けた15人の伝統的産婆が、他の伝統的産婆31人に対して、研修で学んだことを伝えました。合併症のリスクを減らすためにも保健施設での分娩を妊婦に進め、サポートするよう働きかけています。

活動⑧ 貯蓄・貸付グループ活動

村落保健員と伝統的産婆に対して、貯蓄・貸付グループ活動の目的や方法についての研修を実施しました。計42名（男性25人、女性17人）が参加し、参加者がそれぞれのグループで他のメンバーに説明できるように、3日間かけて研修を行いました。この活動を通じてグループまたは個人の経済状況の改善が見込めるように、グループ活動の継続的なモニタリングを実施していきます。

伝統的産婆46名がグループとして本活動を開始しました。最初のミーティングで24,000ケニアシリング（約2万7千円）を資金として集めました。今後、毎月ミーティングを開き、預金の

集金と貸付・返金をルールに従って管理していきます。



貯蓄・貸付グループ活動の研修の様子

活動⑨ 巡回診療

保健省、村落保健員、アドボカシー・グループが連携して毎月巡回診療を実施しています。

報告期間には、5歳未満児 251 人（男子 128 人、女子 123 人）が予防接種を受け、そのうち 100 人（男子 54 人、女子 46 人）が完遂することができました。親や保護者に予防接種の意義と未実施の予防接種の情報を伝え、一人でも多くの子どもが予防接種を完遂してより健康に過ごすことができるように、啓発活動を続けています。

対象期間中に 43 人の妊産婦および 229 人の授乳婦が産前健診や HIV 検査、尿検査、血液検査、VDRL（梅毒）検査、葉酸や破傷風トキソイドの投与などの母子保健サービスを受けました。16 人の妊産婦が HIV 検査を受け、3 人が 4 回の産前健診受診を完了しました。

エランガタ・エンテリット診療所でこの期間に 7 人の赤ちゃんが生まれました。

活動⑩ 保健省との定期会合

保健省、地域のリーダー、村落保健員との会合を開き、本事業の進捗や課題を SWOT 分析にて評価しました。村落保健員の活動により地域の意識や行動は変化がみられてきていますが、エランガタ・エンテリット診療所をさらに活用し、コミュニティの保健を強化するために、政府が実施すること、村落保健員が実施することを確認しました。

活動⑪ コミュニティでの栄養教育

エランガタ・エンテリット地区で 20 人の母親に完全母乳育児の意義、早期に離乳食を開始するリスク、食品衛生など、乳幼児に対する授乳・食事に関する基本的な知識・行動の教育を行いました。この 20 人がさらに各自の村で他の母親に学んだ情報を伝えていくことで、正しい情報をコミュニティ全体に伝えていきます。

保健省と協働の上、巡回診療や診療所にて子どもの栄養状態を確認し、栄養不良児に栄養補助

食の支給を継続的に行っています。対象期間に5歳未満児165人（男子96人、女子69人）のフォローアップおよび新たに69人の身長・体重・MUACの測定を実施、30人が栄養不良と診断され（うち5人が急性栄養不良）、栄養補助食の支援等を受けることができました。栄養不良児の回復の状況は継続的にモニタリングをしていきます。

17人の村落保健員に対して、栄養改善の行動変容アプローチの研修を実施しました。エランガタ・エンテリット地区の3つの村で、このアプローチを通して、コミュニティの母親や保護者に栄養教育を開始しました。このアプローチは、村にいる健康な子どもと栄養不良の子どもを探し、健康な子どもの家庭での食事の内容や食生活を成功例とし、栄養不良の家庭に食事のデモンストレーションなどを通じて栄養教育をしていくものです（PD Hearth/Positive Deviance Hearthと呼ばれています）。



栄養教育は栄養不良の子どもを見つけて登録し、その後の成長をモニタリングしていきます。最初に身長・体重を測定します。



子どものケア、健康/予防接種、食事、衛生のカテゴリーで何が良い行動か、何がやめるべき行動かを話合いました。

また、現地で手に入る食物を使って、栄養価の高い食事のデモンストレーションを行っています。子どもの食事に関して地域の食文化にタブーはなく、あくまでも習慣や知識の欠如によって栄養の偏りがあることがわかりました。しかし、子どもの栄養不良を認めたがらず、セッションに参加しない保護者がいるなど、コミュニティの意識・行動変容には今後も根気強く活動を継続することが必要です。

【連絡先】

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー3F

TEL: 03-5334-5350 FAX: 03-5334-5359

担当: 平田 (マーケティング第1部 法人・特別ドナー課)